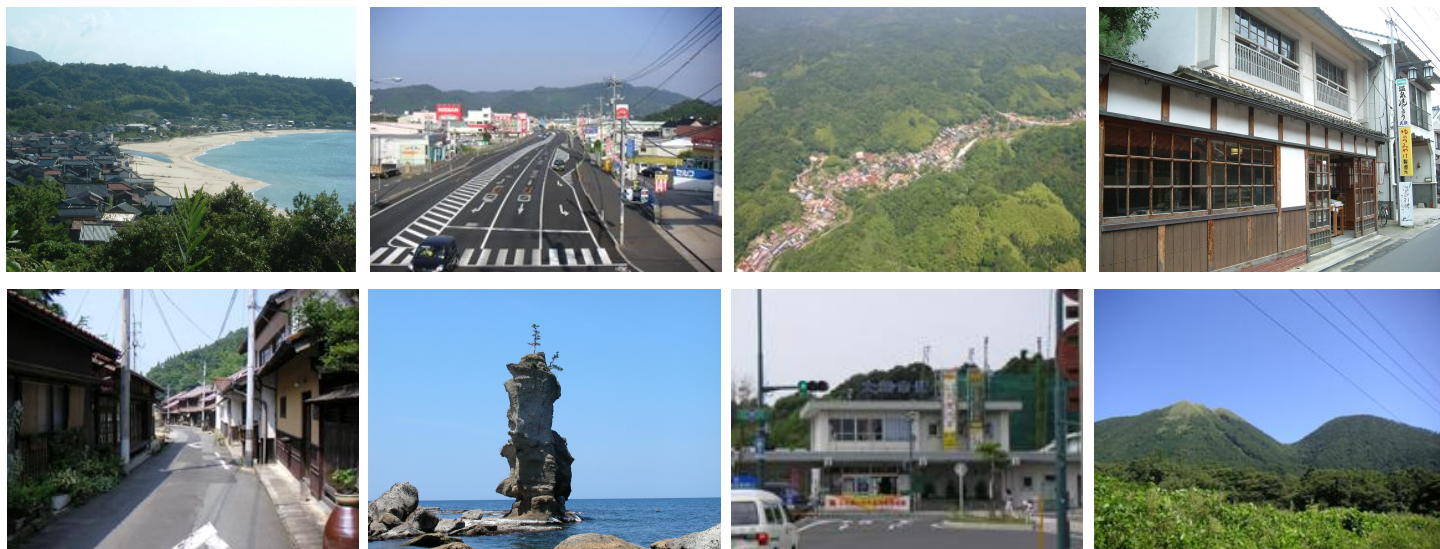


連携と交流による

だれもが住みよい都市づくり

大田市都市計画マスタープラン《概要版》



— 都市計画マスタープランとは —

1. 計画策定の背景

本市は、平成 17 年 10 月に、1 市 2 町の合併により新しい大田市が誕生しました。上位計画である総合計画の将来像『自然・歴史・人が光り輝くだれもが住みよい県央の中核都市』の実現に向け、都市計画分野においても、新しい大田市としての一体的な都市づくりを具体的に進めるため指針を定める必要があります。

また、近年では、少子高齢化社会の到来や社会経済情勢がめまぐるしく変化するなか、市民の多様なニーズに対応した都市づくりが求められます。本マスタープランの策定により、都市づくりの具体的な将来ビジョンと地域別の整備の方針を定め、総合的かつ計画的な都市づくりを展開し、市民の快適な生活環境の形成を進めます。

2. 計画の対象

①計画の目標年次

本計画は、平成 20 年度から概ね 20 年間を対象期間とし、長期的な都市の将来像を展望して策定します。ただし、具体的な整備については、大田市総合計画との整合性を踏まえ、概ね 10 年後の平成 28 年度を目標年次とし、社会状況の変化等により必要に応じて見直していくものとします。

②計画対象区域

本計画は、市街地と集落の連携、周辺の自然環境との調和を図りながら、望ましい土地利用や都市整備を実現していくため、大田市全域を対象とします。

— 全体構想 —

1. 都市づくりの理念

総合計画の将来像を実現するため、都市づくりによって『自然・歴史・ひと』の『連携・交流』を強化していき、新しい大田市としての一体的な都市形成が望めます。また、『だれもが住みよい』まちを目指して、生活者の視点にたった安全で安心の住環境の整備や都市基盤の整備等により、総合的かつ効果的な都市環境の形成が望めます。

2. 都市づくりの目標

連携と交流による
だれもが住みよい都市づくり

- 魅力・活力・一体感のある新しい都市づくり
- 安全・安心・快適で誰もが住みよい都市づくり
- 自然・歴史・文化を育み継承する都市づくり

3. 将来都市構造

拠点の方針

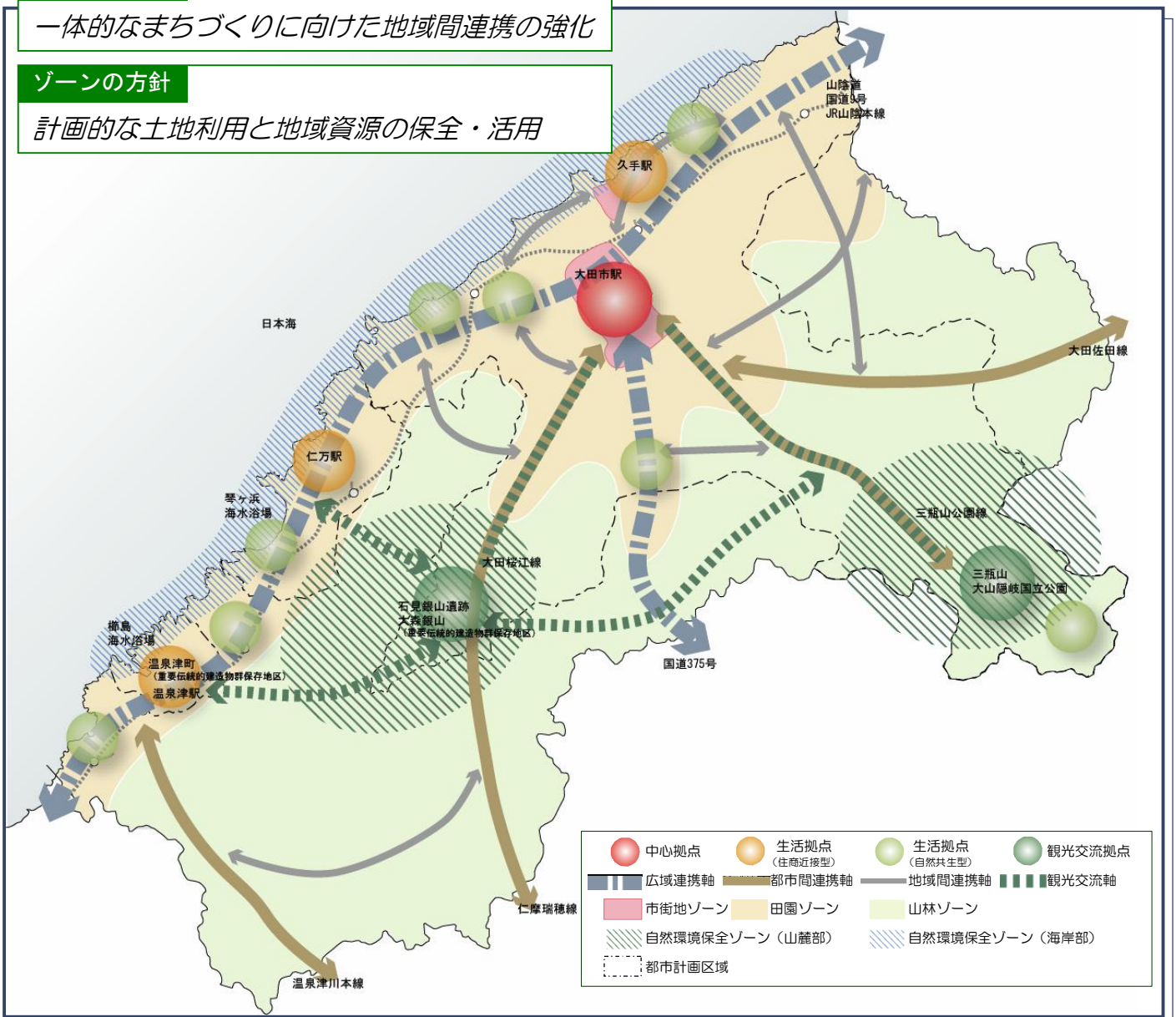
地域の特徴を活かした拠点の形成

連携の方針

一体的なまちづくりに向けた地域間連携の強化

ゾーンの方針

計画的な土地利用と地域資源の保全・活用



拠点の方針

地域の特色を活かした拠点の形成

〈中心拠点〉

大田市駅周辺の中心拠点では、県央に位置する大田市の中核にふさわしい魅力ある拠点とし、商業・業務・文化等の都市機能の充実を図るとともに、中心市街地の計画的な整備や安全・安心の住宅地整備等により、快適な居住環境の形成を図る。

〈生活拠点(住商近接型)〉

久手駅、仁万駅、温泉津駅周辺などの住商が近接した生活拠点では、地域の商業や福祉などの生活機能の充実により、生活利便性の向上を図る。

〈生活拠点(自然共生型)〉

市内に点在する集落では、周辺の自然環境や農業・漁業環境を保全・活用し、自然と共生した生活環境の形成を図る。

〈観光交流拠点〉

石見銀山遺跡や国立公園三瓶山は、地域資源を保全・活用しながら観光・交流拠点としての整備を図る。

連携の方針

一体的なまちづくりに向けた地域間連携の強化

〈広域連携軸〉

JR山陰本線や国道9号、国道375号は、大田市の骨格をなす重要な軸として、利便性・安全性の確保や沿道土地利用の計画的な規制・誘導等により、広域的な連携の強化を図る。また、山陰道の整備により、有効的な広域交流の促進を図る。

〈都市間連携軸〉

〈地域間連携軸〉

中心拠点や生活拠点を中心に、都市間や地域間のネットワークを強化し、一体的な都市構造の構築を図る。

〈観光交流軸〉

効果的な地域振興を促進するため、観光・交流拠点と周辺地域との一体性を確保するとともに、市街地からの交流ネットワークを構築する。

ゾーンの方針

計画的な土地利用と地域資源の保全・活用

〈市街地ゾーン〉

用途地域内やその周辺は、コンパクトで計画的な市街地形成を図る。

〈田園ゾーン〉

市街地周辺や幹線道路沿道では、無秩序な市街化を抑制する。

〈山林ゾーン〉

日本海沿岸や市南部に広がる山地は、大田市の貴重な自然環境として保全し、後世に継承する。

〈自然環境保全ゾーン〉



(山麓部)



(海岸部)

琴ヶ浜などの海水浴場や三瓶山・石見銀山遺跡周辺の自然環境は、大田市を象徴する貴重な資源として重点的に保全するとともに、観光やレクリエーションの場として活用する。

— 地域別構想 —

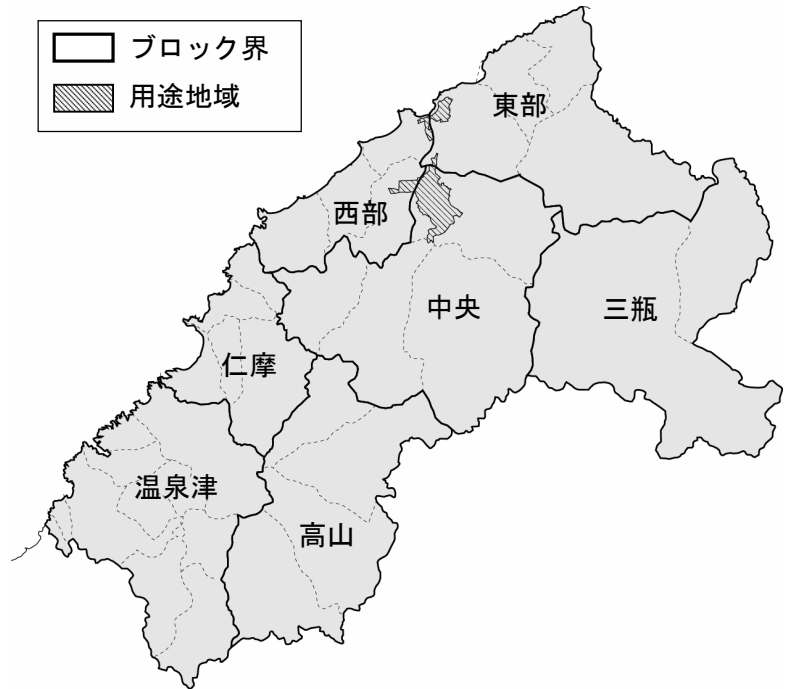
1. 地域区分の考え方

市町合併により、市域が拡大した一方で、中山間地を中心に集落機能が低下している集落が増加しています。

また、市民生活において、交通体系の整備などにより、より広範な活動が容易になる中、これまで以上に多様で高度な行政サービスが求められており、従来の旧町村といった生活圏の単位では対応できない状況となっています。

このため、今後においては、新たな生活圏として、コミュニティ推進の基本単位を7つのブロック単位とするとともに、都市整備においても7つのブロックを基本とし、地域づくりを進めます。

2. ブロックの編成



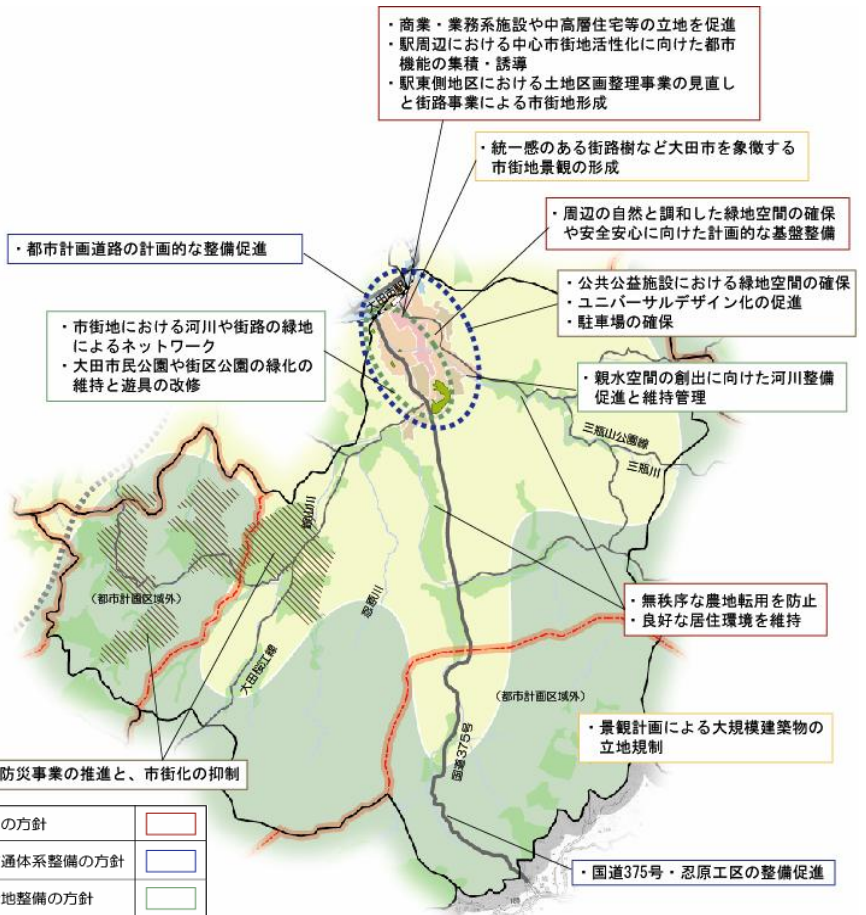
<地域別構想> —中央ブロック—

地域づくりのテーマ

**自然・歴史と調和した
賑わいと安心の地域づくり**

地域づくりの基本方針

- 中心市街地再生に向けた都市施設の整備、都市計画道路の適正配置を図る
- 大田市の顔となる景観形成、都市環境の保全・創出を図る
- 都市周辺における安全で安心できる居住環境の形成を図る



市街地ゾーン	商業・業務地	広域連携軸	土地利用の方針
	利便住宅地	都市間連携軸	道路・交通体系整備の方針
	専用住宅地	地域間連携軸	公園・緑地整備の方針
	工業地	観光交流軸	景観形成の方針
田園ゾーン		JFR山陰本線	その他の施設の方針
山林ゾーン		都市計画区域界	
農用地		ブロック界	
河川			

<地域別構想> 一 東部ブロック

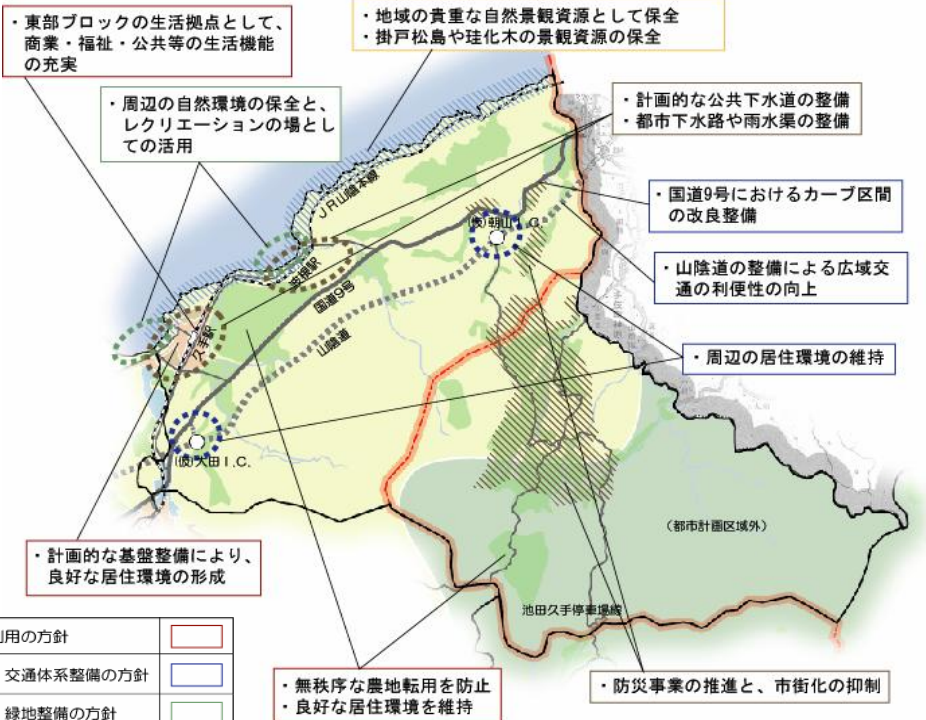
地域づくりのテーマ

**自然と文化が息づく
安全で住みよい地域づくり**

地域づくりの基本方針

- 密集した住宅地の計画的な改善と生活基盤の整備を図る
- 海岸や農地と調和した安全で快適な居住環境を形成する
- 広域交通機能の整備に併せ、地域内ネットワークを強化する

市街地ゾーン	商業・業務地		広域連携軸		土地利用の方針	
	利便住宅地		都市間連携軸		道路・交通体系整備の方針	
	専用住宅地		地域間連携軸		公園・緑地整備の方針	
	工業地		観光交流軸		景観形成の方針	
田園ゾーン			JR山陰本線		その他の施設の方針	
山林ゾーン			山陰道			
農用地			都市計画区域界			
河川			ブロック界			



<地域別構想> 一 西部ブロック

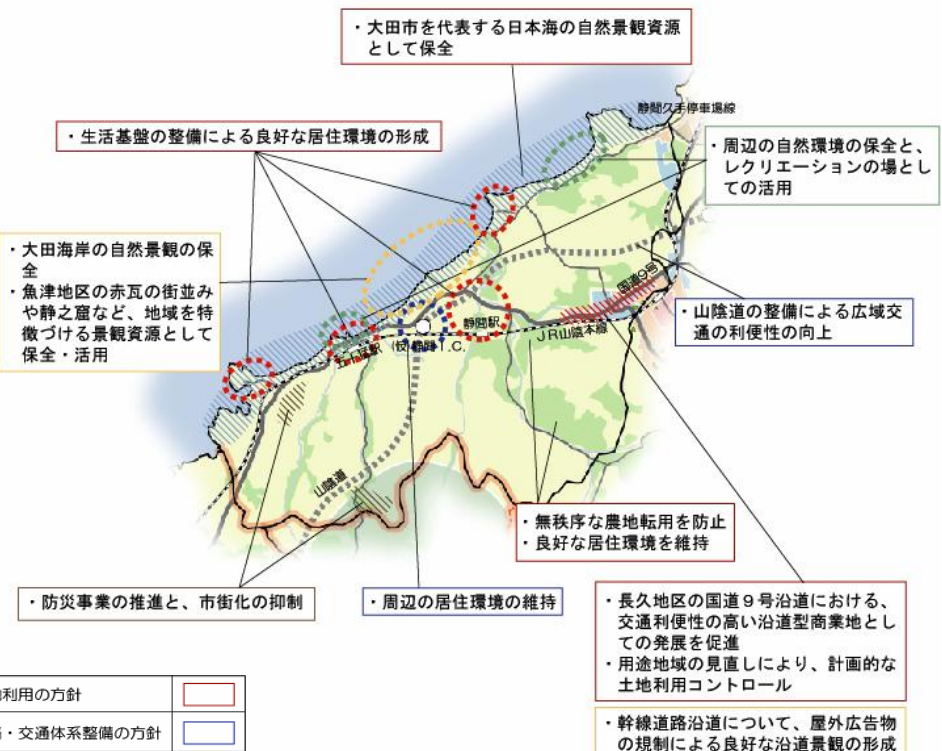
地域づくりのテーマ

**都市機能と自然環境が
調和した快適で
住みよい地域づくり**

地域づくりの基本方針

- 国道9号沿道とその背後地の計画的な土地利用を図る
- 各集落の生活環境の整備を図り、地域内ネットワークを強化する
- 大田市を代表する日本海沿岸の自然景観を保全する

市街地ゾーン	利便住宅地		広域連携軸		土地利用の方針	
	工業地		都市間連携軸		道路・交通体系整備の方針	
			地域間連携軸		公園・緑地整備の方針	
			観光交流軸		景観形成の方針	
田園ゾーン			JR山陰本線		その他の施設の方針	
山林ゾーン			山陰道			
農用地			都市計画区域界			
河川			ブロック界			



<地域別構想> 一三瓶ブロック

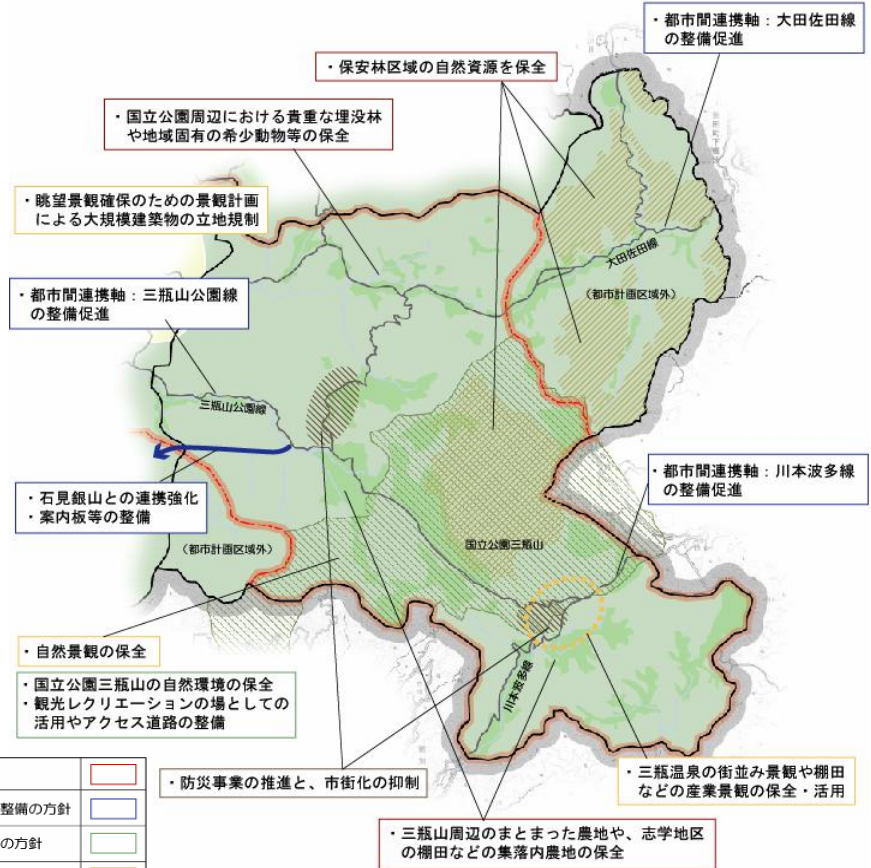
地域づくりのテーマ

**三瓶の自然を活かした
やすらぎと交流による
地域づくり**

地域づくりの基本方針

- 周辺地域との連携を強化するための広域道路の整備を推進する
- 集落間のネットワークを強化し、一体的な地域づくりを推進する
- 自然景観の保全と自然と触れ合う観光レクリエーションの形成を図る

田園ゾーン	広域連携軸	土地利用の方針
山林ゾーン	都市間連携軸	道路・交通体系整備の方針
農用地	地域間連携軸	公園・緑地整備の方針
河川	観光交流軸	景観形成の方針
	都市計画区域境界	その他の施設の方針
	ブロック界	



<地域別構想> 一高山ブロック

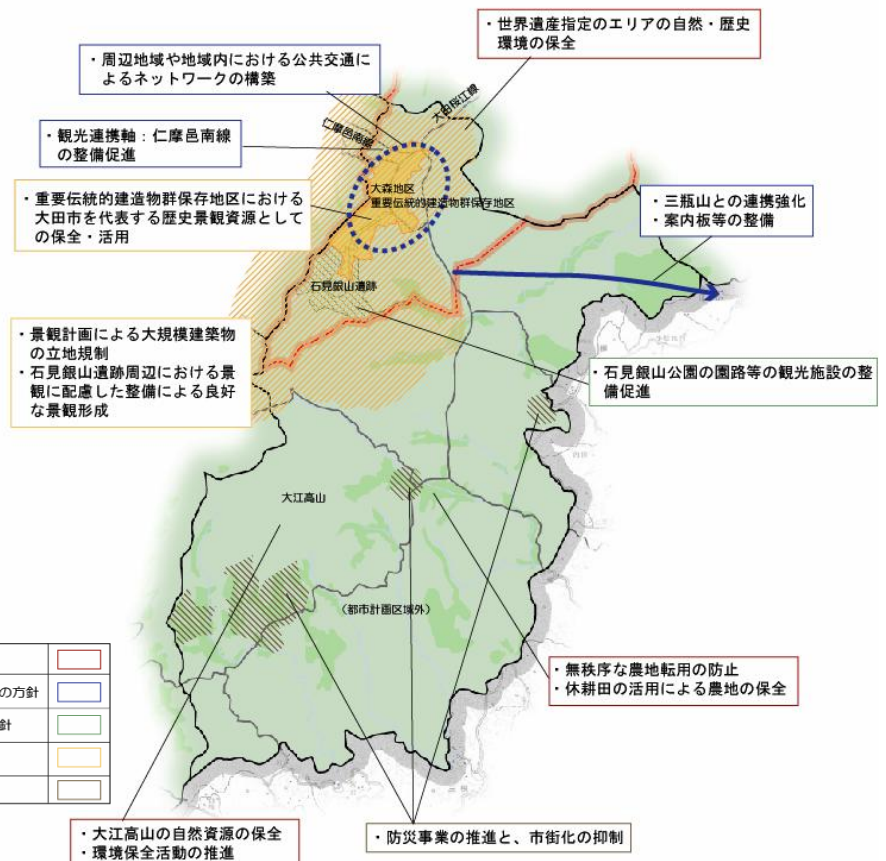
地域づくりのテーマ

**豊富な地域資源を活用した
住みよい地域づくり**

地域づくりの基本方針

- 石見銀山遺跡を核に景観形成を主体とした地域づくりを行う
- 周辺地域との連携を強化するため、道路環境整備などネットワークを構築する
- 自然景観の保全と集落の生活環境を維持する為の取組みを推進する

田園ゾーン	広域連携軸	土地利用の方針
山林ゾーン	都市間連携軸	道路・交通体系整備の方針
農用地	地域間連携軸	公園・緑地整備の方針
河川	観光交流軸	景観形成の方針
	都市計画区域境界	その他の施設の方針
	ブロック界	



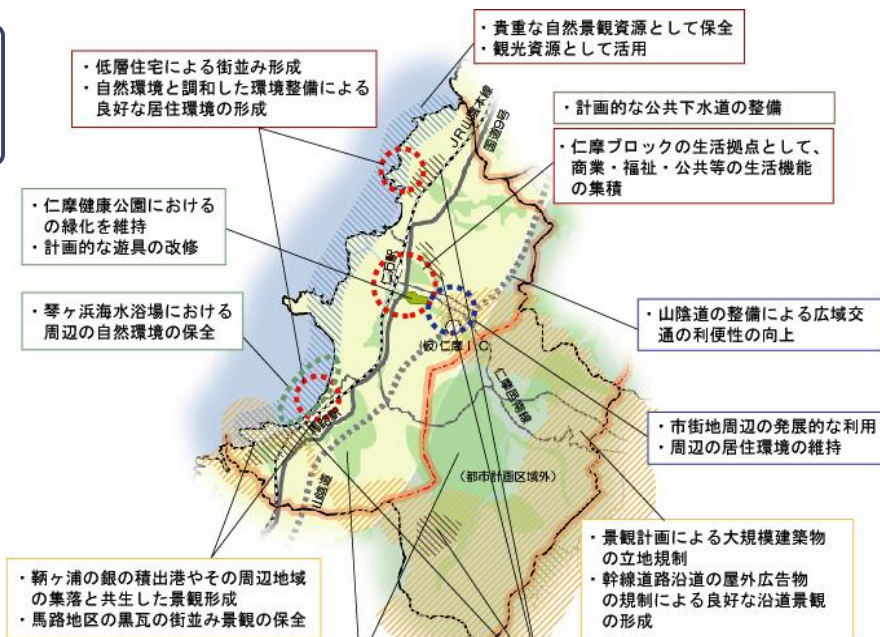
<地域別構想> 一仁摩ブロック

地域づくりのテーマ

自然と伝統が共生する 安全で住みよい地域づくり

地域づくりの基本方針

- 生活拠点としての計画的な土地利用と生活基盤の整備を図る
- 広域交通機能の整備に併せ、周辺地域や地域内ネットワークを強化する
- 海岸の自然景観の保全と自然環境と調和した安全で快適な居住環境を形成する



田園ゾーン		広域連携軸		土地利用の方針	
山林ゾーン		都市間連携軸		道路・交通体系整備の方針	
農用地		地域間連携軸		公園・緑地整備の方針	
河川		観光交流軸		景観形成の方針	
		JR山陰本線		その他の施設の方針	
		山陰道			
		都市計画区域界			
		ブロック界			

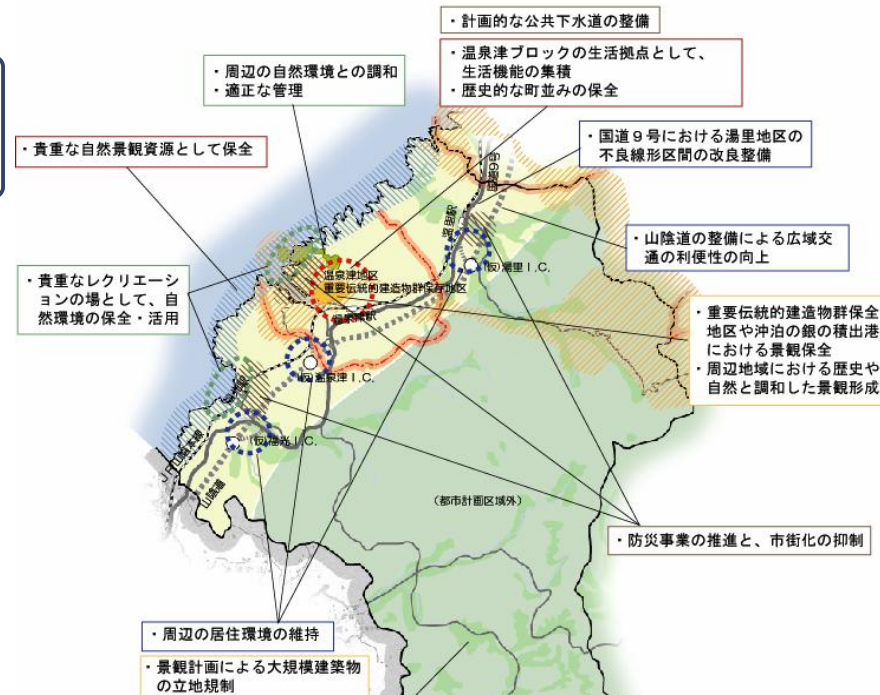
<地域別構想> 一温泉津ブロック

地域づくりのテーマ

自然と文化が輝き、 安心して暮らせる地域づくり

地域づくりの基本方針

- 温泉津地区を中心に歴史的な町並み景観を形成し、周辺との調和を図る
- 広域交通機能の整備に併せ、交通結節点の計画的な土地利用を図る
- 観光拠点に対応した環境整備と生活拠点としての快適な居住環境を形成する



田園ゾーン		広域連携軸		土地利用の方針	
山林ゾーン		都市間連携軸		道路・交通体系整備の方針	
農用地		地域間連携軸		公園・緑地整備の方針	
河川		観光交流軸		景観形成の方針	
		JR山陰本線		その他の施設の方針	
		山陰道			
		都市計画区域界			
		ブロック界			

— 重点的に取り組むべき事項 —

都市計画区域の 拡大・再編

大田市として一体的な土地利用を図るため、都市計画区域の拡大・再編を検討するとともに、山陰道の整備に伴う今後の交通需要や宅地需要を勘案した計画的な土地利用と、周辺の住環境や景観へ配慮した土地利用を行います。

用途地域等の 土地利用の見直し

一体的な都市計画を推進するため、地域の実情に即した土地利用の見直しを検討します。見直しにあたっては、地域住民との十分な協議を行いながら、用途地域等の指定を検討します。

景観計画の推進

大田市が誇る石見銀山遺跡や国立公園三瓶山などの貴重な歴史・自然景観資源と調和した景観まちづくりを推進します。景観法に位置付けられた景観行政団体として、大田市景観計画に基づいた景観条例を制定し、実効性のある景観づくりに取り組んでいきます。

— 推進プログラム —

各主体の都市づくりの役割

行政の役割

- 一体的な土地利用誘導
- 基盤整備等の事業実施
- 市民参加の支援と場づくり
- 関係機関との連携 等

市民の役割

- 市民活動への積極的な参加
- 都市づくりに対する提案
- 事業実施に対する協力
- 自主的なまちづくり活動等

企業・団体の役割

- 規制・ルールへの遵守
- 社会活動への積極的な参加
- 事業実施に対する協力 等

<短期段階>

都市づくりの目標の共有化

- 都市づくりの目標の市民共有
- 一体的な都市づくりの促進

<中期段階>

役割分担による具体施策の実施

- 各主体の役割分担の明確化
- 総合的かつ効率的な具体施策の実施

<長期段階>

合意形成による事業実施と市民参加による管理・運営

- 合意形成による事業実施
- 市民参加による管理・運営

事業実施、管理・運営のシステムづくり

平成 20 年（2008 年）3 月

大田市建設部都市計画課

〒694-0064 島根県大田市大田町大田口 1111

TEL:0854-82-1600 FAX:0854-82-9732